

群馬県の現状

群馬県のおよそ3分の2を占める丘陵山岳地帯では、集中豪雨などにより自然災害が発生する可能性があります。

また、人口10万人当たりの交通人身事故発生件数や負傷者数は、いまだ全国ワースト上位の状況が続いています。

県民の声

【国道462号（譲原工区）】

- ・斜面が近く、木で斜面の状態が見えないため、不安がある。
- ・悪天候時に落石が発生しやすいため、安心して通行できる道路にして欲しい。

【一般県道綿貫篠塚線（馬見塚工区）】

- ・歩道がないので、通行に不安がある。
- ・通学に使用しているが、歩道がなく危険である。

※周辺住民からの聞き取りによる。

課題

異常気象等でも道路利用者の通行を確保するとともに、交通安全面においても安全で安心な道路空間を確保する必要があります。

目的

道路防災総点検の要対策箇所の対策や通学路の歩道整備を図ることにより、安全で安心な生活空間の確保を目指します。

事業の指標

指標1 通行危険箇所の対策箇所数

Σ(防災対策の実施により、道路防災総点検の要対策箇所※が解消された箇所数) (単位:箇所)

※要対策箇所とは…沿道に土砂崩れや法面崩壊などの危険があり、何らかの対策が必要とされている箇所

指標2 通学路の歩道整備率

Σ(通学路※のうち、0.75m以上の歩道もしくはグリーンベルトが整備された道路の割合)

※通学路は…「交通安全施設等整備事業の推進に関する法律施行令」第4条に規定されている通学路

指標3 市街地の幹線道路における無電柱化率

Σ(市街地内の道路延長のうち無電柱化された道路の割合)

成果と達成度報告

要対策箇所※が**114箇所減り**、より安全になりました！

通学路における歩道整備率が**84.7%となり**、より安全になりました！

指標1: 道路防災総点検の要対策箇所が解消された箇所数

	目標	実績	増減
当初値(H25当初)		544箇所	
目標値(H29末)	637箇所	658箇所	当初値より114箇所の対策完了

指標2: 通学路の歩道整備率

	目標	実績	増減
当初値(H25当初)		—	
目標値(H29末)	83.6%	84.7%	目標値より1.1%整備が進んだ

指標3: 市街地の幹線道路における無電柱化率

	目標	実績	増減
当初値(H25当初)		11.6%	
目標値(H29末)	15.0%	15.0%	当初値(11.6%)より3.4ポイント増

整備効果事例

事例① 国道462号(譲原工区) 道路災害防除

■位置図



箇所名：
藤岡市譲原

■整備効果

整備前



斜面上に転石があり、落石の発生が心配・・・

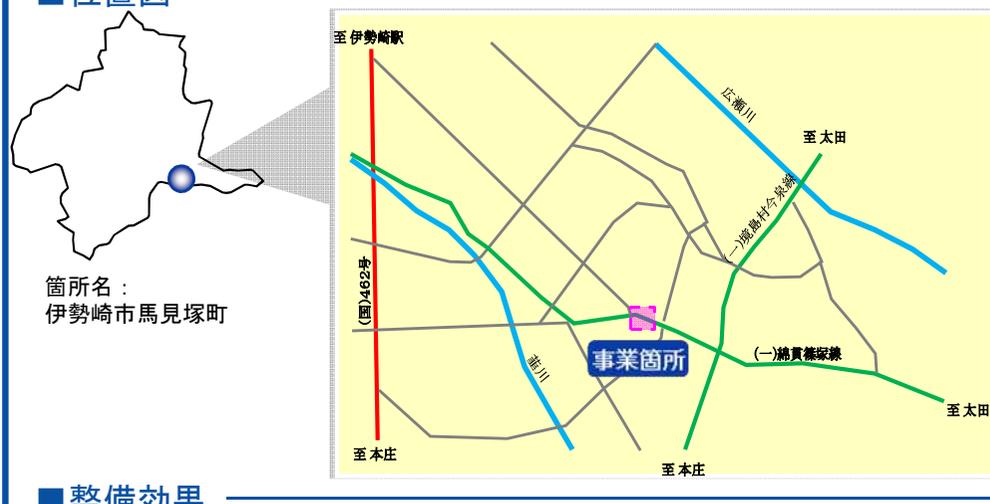
整備後



落石を防護する網を設置し、安全な通行が確保された

事例② 一般県道 綿貫篠塚線(馬見塚工区) 歩道整備

■位置図



箇所名：
伊勢崎市馬見塚町

■整備効果

整備前



歩道がないので通行が心配・・・

整備後



歩道を設置し、安全な通行が確保された